

# 甲南大学法科大学院入学試験問題について

2018年度春入学

一般入学試験（B日程・12月2日分）

## 試験科目：刑事訴訟法

### 1. 出題趣旨

〔設問1〕法197条1項・「強制の処分」について

○捜査機関の事実行為が適法か否か判断する規範である「強制の処分」について判例の動向を踏まえて的確に説明すること。

〔設問2〕保釈の意義・必要な手続

○勾留と保釈の関係。保釈の3種類の提示。保釈の手続など基本事項の確認。

〔設問3〕証拠調べの方法と条文

○証拠の性状に応じて証拠調べを実施する方法を理解しているか問うもの。

### 2. 採点実感

【1問】GPS捜査を違法とした大法廷判決をしっかりと意識した答案は少なかった。このため、意思の制圧など重要な利益侵害を伴う措置であることを明確に摘示したものが少なかった。また、強制処分の例として法定のものをあげるものがあつたが、少数ながら、判例の動向を踏まえて強制処分として違法とされた例を示したものもあつた。

【2問】条文にそつて概ね知識を手際よく整理していた。なお、第1回公判の前後で手続の主催者が異なることも摘示してあるほうが適切である。

【3問】法304条、305、306条に従つて適切に整理した答案が多かつた。書証取調べをまず説明し、不同意の場合、証人尋問請求に及ぶことを説明して証拠調べ実施方法を述べた優秀なものもあつた。

### 3. 学習方法

刑事訴訟法の定評のあるテキストを「読んだらわかる」ではなく、「相手に説明する」レベルで定着させる学習を求める。